

内灘かるたで 郷土の誇り

内灘町国際交流ボランティア団体「Switchうちなだ」は19日までに、郷土の自然や歴史、人物などを題材とした「内灘かるた」を作った。読み句は英訳し、町民だけでなく、外国人にも内灘の魅力を伝える。20日に開幕する「JAPANTENT」世界留学生交流・いしかわ2009（北國新聞社特別協力）を皮切りに活用する。

内灘かるたの制作は「JAPANTENT」の開催がきっかけとなり、潟渚（わたがし）幸子代表（60）と大根布4丁目と多田美代さん（60）と鶴ヶ丘5丁目が昨年からの準備を進めてきた。かるたは「ん」「る」

国際ボランティアが制作



「内灘かるた」の出来栄を確認する（右から）潟渚代表、多田さん、ジェフリーさん—内灘町宮坂の茶室惜亭

栄えを確認する（右から）潟渚代表、多田さん、ジェフリーさん—内灘町宮坂の茶室惜亭

英訳、ジャパントでデビュー

「る」を除く平仮名44種類で構成され、寸松庵色紙（約13センチ四方）を使い、町書道協会の書家4人が読み札、町絵画協会の画家7人が絵札を仕上げた。

読み句は町内から公募し、集まった約400点の中から、八十出泰成町長らを選び出した。海岸沿いのアカシア林や豪商の銭屋五兵衛、粟崎遊園、内灘闘争、

かるたは24日に内灘町宮坂の茶室「惜亭」で行われる「JAPANTENT」の内灘町プログラムで初披露し、参加する留学生16人に楽しんでもらう。

「恋人の聖地」に選ばれた内灘大橋など内灘のさまざまな資源を題材にした。日本語が苦手な外国人にも理解してもらうため、7月末に着任した町国際交流員のシェ・ジェフリーさん（24）と米国ロサンゼルス出身に協力を求め、読み句だけでなく、歴史や人物などの解説文を英訳し、一覧にした。

潟渚代表は「自分たちがふるさとを見つめ直し、誇りを持つきっかけにもなった。まずは留学生に内灘の魅力を伝えたい」と話した。